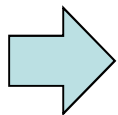


桜町・花畑地区における賑わいと潤いの 都市空間の新たな方向性

1. 検討の背景

- ◆ 時代環境の変化
 - 長引く景気低迷による投資環境の変化
 - 生活環境を重視する国民意識の変化
 - 東日本大震災等の発生と防災力向上の必要性
 - 九州新幹線の全線開業と都市間競争の激化
 - 政令指定都市への移行と道州制を見据えたまちづくり
- ◆ 地域環境の変化
 - 桜町地区におけるMICE施設の整備方針の決定
 - 肥後銀行本店の建替計画の決定
 - くまもと森都心プラザのオープン
 - 花畑地区（B街区）におけるNHK熊本放送局の移転決定
 - 桜町地区の再開発コンセプト・規模の決定



こうした環境や条件等の変化を踏まえ、熊本市の中心市街地再デザインにおいて極めて重要度が高い桜町・花畑地区については、熊本市がより主体性を発揮して、新たな方向性に基づき、賑わいと潤いに満ちた上質な都市空間が一体的に形成されるよう整備を加速させる

2. 新たな方向性のポイント

- I. 桜町地区については、人、モノ、情報の交流拠点となるランドマーク施設の整備を目標としていることから、新たな公共施設整備は同再開発事業におけるMICE施設に集中させ、コンベンションや会議だけでなく、音楽コンサートや屋内型イベント、展示会など、多様な賑わいを生み出す空間として位置づける。
- II. 花畑地区（A街区）については、桜町再開発地区の施設群とアーケード街との結節性を重視することにより、辛島・花畑公園やシンボルプロムナードとの一体性も考慮しながら、オープンスペースの賑わい機能を果たす広場を整備する。
- III. 旧産業文化会館のホール機能については、新たに整備するMICE施設と市民会館などの既存施設により機能分担を図る。
- IV. 地区全体としてまちの賑わいを生み出す都市空間としての機能を最大化するため、新たに都市計画の手法等を活用して、それぞれの施設等の整合性を確保するとともに、地区全体を結節させ、熊本城と庭つづきとなる「まちの大広間」シンボルプロムナードの整備を進める

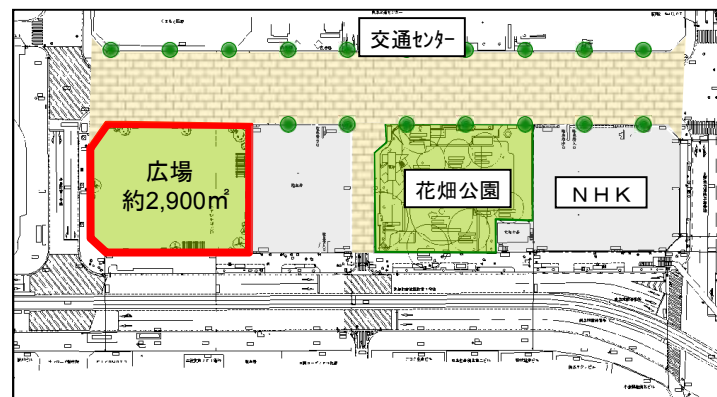
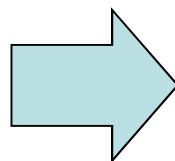
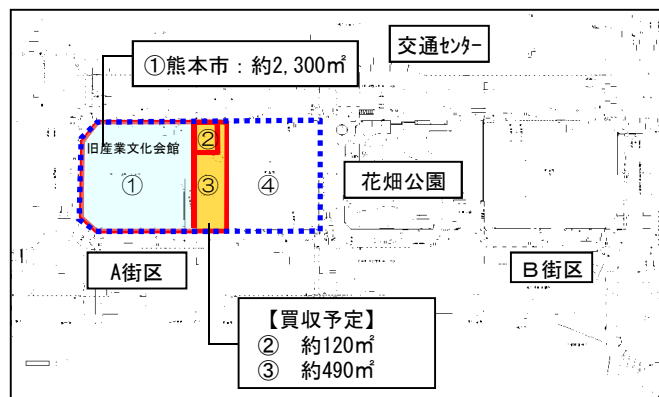
3. 花畑地区の方向性

まちの大広間であるシンボルプロムナードと一体的に、人が行きかい、賑わうエリアとして、桜町再開発地区の施設群とアーケード街との結節空間を目指す

- ① 花畑地区A街区において、現行の再開発事業のスキームを解消
- ② 旧産業文化会館の解体に着手し、その隣接地の一部（私有地を市が購入）とあわせて広場を整備
- ③ ②の広場はオープンスペースとし、まちの賑わいを生み出すような様々なイベントを実施できる空間や防災のための空間として活用

※ 桜町地区の円滑な整備を図る観点から、上記土地をバスターミナル等として暫定的に活用

- ④ 花畑公園については、シンボルプロムナードとの一体感にも配慮しながら、旧花畑屋敷としての歴史・土地の記憶を継承する空間として整備・活用
- ⑤ NHK熊本放送局や残る私有地については、地区全体の果たす機能と整合性のある活用を調整

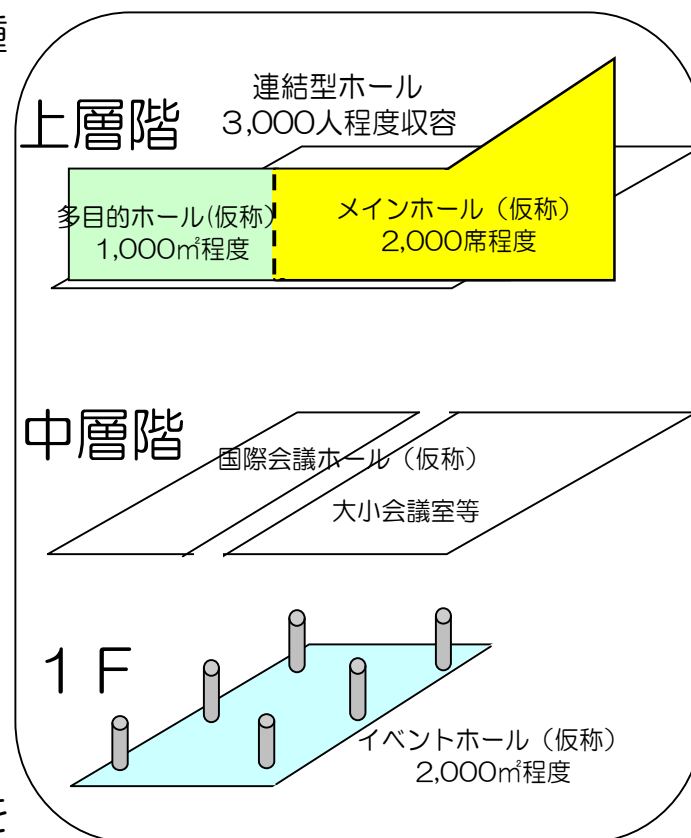


4. 桜町地区MICE施設の方向性

桜町再開発のコンセプトである「人・モノ・情報の交流拠点」の中核施設として、昼夜を通じて様々な賑わいを創出する交流施設を目指す

- ① 搬入・搬出等の利便性が高い1階フロアに、各種の屋内型イベントや展示会等に利用しやすい2,000㎡程度のフラットな「イベントホール(仮称)」を整備
- ② 上層階に、コンベンション等の開催だけでなく、音楽ツアーコンサート等にも対応した2,000席程度の固定席の「メインホール(仮称)」を整備
- ③ ②とあわせて一体的な利用により3,000人程度が収容可能となるよう1,000㎡程度のフラットな「多目的ホール(仮称)」を整備
- ④ 国際会議等だけでなく、400人程度の市民等の文化イベントでも利用可能な500㎡程度のフラットな「国際会議ホール(仮称)」を整備
- ⑤ その他様々なニーズに対応可能な大小の会議室を整備

(MICE施設の配置イメージ)



(参考) ホール機能の分担イメージ

【旧産業文化会館ホールの状況】

固定席700席 年間催事件数 410件（うち、音楽催事は160件）（H18~19平均）

- ① MICE施設に「メインホール（仮称）」を整備することにより、利用率が高い市民会館崇城大学ホール（大ホール）（1,591席）への負荷が軽減
→ 市民が文化活動などで市民会館をこれまで以上に利用しやすい環境を整備
- ② 中規模のホール利用のニーズについては、①によるほか、MICE施設における「多目的ホール(仮称）」（1,000人程度の催事やホール分割利用も可能）や「国際会議ホール（仮称）」（400人程度の催事が可能）や大小会議室のほか、森都心プラザホール（489席）などの既存施設での機能分担を図る

【熊本市中心部における既存ホールの状況】

- 熊本県立劇場コンサートホール
1,810席 クラシック系コンサートに特化したホール（ホールツアーコンサート対応はなし）（73.6%）
- 市民会館崇城大学ホール（大ホール）
1,591席 音楽、文化など幅広い催事に対応したホールで利用率も高い（87.7%）
- 熊本県立劇場演劇ホール
1,172席 演劇だけでなく、音楽、文化など幅広い催事に対応したホールで利用率も高い（83.2%）
- 森都心プラザホール
489席 可動席ではあるが、音響がよく、文化催事以外の音楽コンサートにも対応（62.9%）
- 国際交流会館ホール
230席 可動席ではあるが、集会、講演、音楽会、演劇など幅広い催事に利用されている（84.8%）

※上記利用率は平成23年度、森都心プラザホールのみ平成23年10月から一年間

※熊本県内には、ホールツアーコンサートが多く開催される1,800席以上のホールが存在しない
（九州では佐賀、熊本のみ存在しない）